

小野隨心院をの、ずゐ しんゐんは勸修寺くわんじゆじの東なり、曼陀羅寺まんたらじと号す。真言宗にして、開基は仁海僧正にんかいそうじやうなり。法務は小野御門跡をの、こもんせきと称す、撰家せつかけの御連枝住職れんしちゆうしよくし給ふ。「開基仁海にんかいは小野僧正をの、といふ。寛仁二年六月大に旱す、此僧正に勅して神泉苑しんせんゑんにおいて請雨經の法を修せしむ。時に大雨降事三日三夜、其後九度詔ありて皆雨をふらす、世人せじんあめの雨僧正と呼ぶ。永承元年五月十六日寂、年九十二。以上元亨釈書」

小町水こまちのみづ〔門内南の藪の中にあり。此所は出羽郡司小野良実をの、よしざねが宅地にして、女小野小町つねに此水を愛して艷顔を粧ひしとぞ〕

栢かやの樹き〔厨の前にあり、深草少将ふかくさ此地に百夜かよひ植置きしなりとぞ〕

深草少将ふかくさのせうしやうの通ひ路だいち〔醍醐往還だいごの西側藪の中にあり。墨染すみぞめの南欣浄寺ごんじやうじの地より、小町が宅へ百夜のかよひ路なり。竹林といへどもいにしへより竹一株も生ぜずといふ〕桜塚さくらづか〔小野村をのむらの西にあり、小野小町をのこまちが文塚ふみづかとも、一説には後小野宮道をのみやみちの墓ともいふ〕野色山のいろやま〔道の西にある小山なり〕員塚かぞへづか〔四位少将百夜通ひし数を積し所なり〕